令和5年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 神和認定こども園

観点	①心の育ちを優先し、生きる力の基礎を育む教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	・ 0.1.2歳児クラスでは、子ども一人一人に応答的に対話的に関わり、信頼を深める「育児担当制」に取り組んで6年目となる。子どもが自分の好きな遊びを主体的に遊ぶことができる保育室の環境整備を今年度の課題としている。 ・ 3.4.5歳児クラスでは、子どもが主体的に遊びを展開して、集団の中で自己を発揮して育ち合う子ども主体の保育に取り組んでいる。その遊びが展開していくために、今何が必要かを見極める観察力と環境作りを課題としている。
目標	<0.1.2歳児クラス> 一人一人を大切に、応答的に対話的に関わる 思いに共感され大切にされて、大人への信頼を深め、親子の愛着につなげる。 自立への成長を支える。小さな「ひとりできるもん」の気持ちをしっかりと認める。 <3.4.5歳児クラス> 子ども主体の遊びを通して、自信と自己肯定感を育む 「ひとりできる」が増えて自信を持つ。 自分で考えることを大切にして時間の保障をする。 「自分で考える」「自分で決める」「みんなで考える」「みんなで決める」を支える。
目標達成に向けた具体的な取組内容	・ 0.1.2歳児クラス担任は月2回の「にこにこ会議」を通して、子どもの様子について語り合い、発達に合った環境作りについて考える。また、より応答的、対話的に関わりができるよう定期的に園内研修を行い、質の向上につなげる。育児担当制を行っている他園に外部研修に行き、伝達研修を行い、自園の担当制を振り返り、課題や悩みを出し合い、共有する。 ・ 学年ごとの会議に加えて、3.4.5歳児クラス担任会議で、子どもの内面や育ちについて語り合い、子ども観察と理解を深める。また、子どもが遊び込める環境作りや子ども主体の遊びについて意見を出し合い、共有する。
成果	・ 0.1.2歳児クラス担任の「にこにこ会議」で、子どもの様子について語り合うことで、子どもへの関わり方や発達に合った遊びについての環境構成をみんなで考えることができ、職員間の共通理解につながった。また、外部研修で学んだことを伝達研修し、クラスの悩みや課題の解決につなげた。室内の環境を定期的に見直したことで、各年齢の遊びが広がり、子ども達がじっくりと遊べるようになってきている。 ・ 3.4.5歳クラスごとの学年会議では、子どもの様子について語り合うことで、子どもの育ちや課題を共通理解することができた。いろいろな意見を出し合うことで、多面的に子どもを見ることができ、肯定的な子ども理解や援助につながっていると感じている。ただ、学年を越えての話し合いが少なかったため、その機会をもっと増やして、子どもの育ちの見通しや保育の目的の共通理解をさらに深めることを今後の課題としたい。
評価	0,1,2歳児では「一人一人を大切に、応答的に関わる」、3,4,5歳児では「子ども主体の遊びを通して、自信と自己肯定感を育む」という、目的が明確に共有されており、職員みんなでそれに向かって進んでいる一体感を感じることができる。そして、本園の温かく親しみやすい雰囲気を醸成しているのは、平素の先生方の柔らかな表情や丁寧な温かい言葉かけなどの積み重ねであり、今後も粘り強く丁寧に子どもたちの思いや考え、意見などをくみ取る姿勢を大切にして、子どもたちの「主体性」や「自主性」を育てていきたい。